

図 世帯の小規模化(国別平均世帯人員の推移)

出典：国際連合「世界人口年鑑」、わが国については、総務庁「国勢調査」、
2020年については国立社会保障・人口問題研究所の推計により、筆者が作成

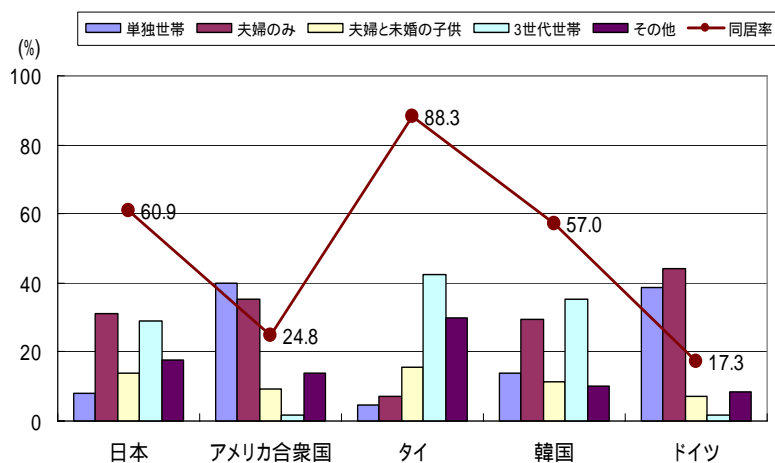
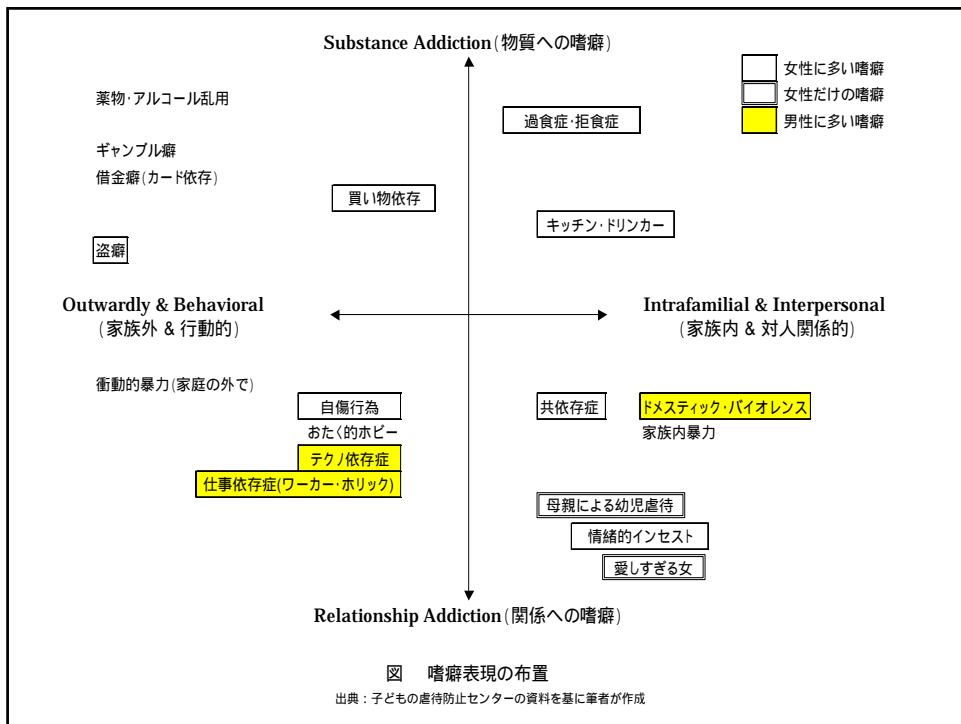


図 国別高齢者(60歳以上)の同居率

注：同居率は単独世帯と夫婦のみ世帯以外の世帯割合である
出典：総務庁「高齢者の生活と意識第4回国際比較調査」(平成9年)より筆者が作成



四戸は、共依存症を特徴づけるものとして、
次の基本構造を見い出しています。

- 自己肯定感欠如 適切なレベルの自己評価を得ることができない障害
- ボーダレス因子 他者に干渉することで、自己の存在証明をしようとする障害
- 自己表現欠如 自己の欲求を他者に適切に伝えることができない障害
- 自己ケア欠如因子 独りでいることに耐えられない障害
- 自己愛欠如因子 自己の欲求を適切に認識することができない障害

☐ 相談した ☐ 相談したかったが、相談しなかった ☐ 相談しようと思わなかった ☐ 無回答

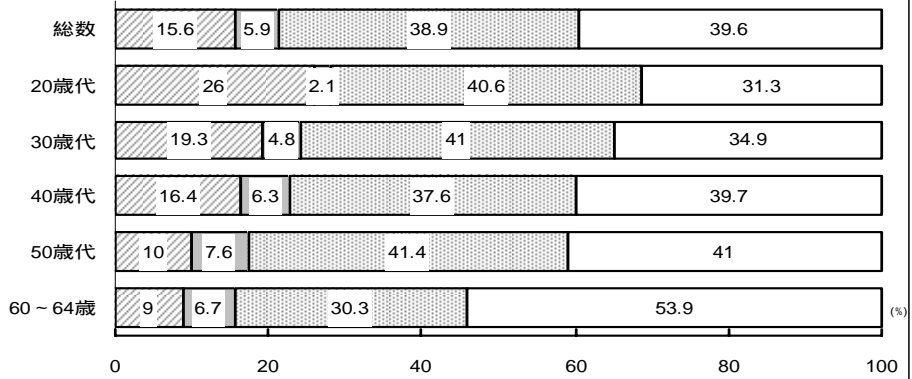


図 夫やパートナーから暴力をふるわれた時の相談の有無(年齢別)

注：(1)回答者は夫やパートナーから暴力を受けた経験があると回答した女性で
20歳代96名、30歳代166名、40歳代189名、50歳代210名、60～64歳89名。
(2)内訳の各割合は表章単位未満を四捨五入してあるので、内訳の合計が計と一致しないこともある。
出典：東京都生活文化局「女性に対する暴力」調査報告書（平成10年3月）

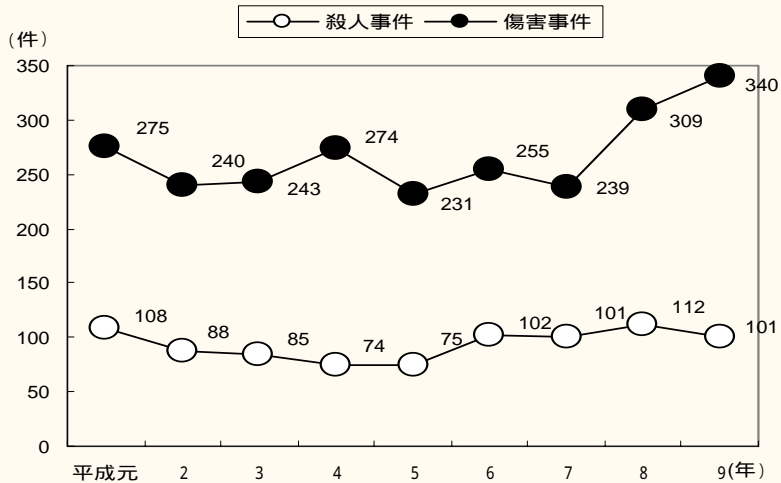


図 妻が被害者となった殺人・傷害事件検挙件数の推移

注：(1)尊属殺及び嬰兒殺を除き殺人予備自殺関与を含む (2)傷害致死を含む

出典：警察庁「犯罪統計書」により筆者が作成